

小中一貫教育研究会を終えて

学校長 森 愛子

6月17日に本校を会場として、西谷中学校区の小中一貫研究会が開催されました。市沢小は家庭科と総合以外の全教科・領域の授業を公開し、西谷中・川島小・鶴ヶ峯小の先生方が一同に会しました。また、保土ヶ谷高校の校長先生も数名の先生とともに参加してくださいました。授業参観後は、分科会を設け、それぞれの教科ごとにテーマについて話し合い、小中連携の在り方について話し合いました。会場を変えつつ、毎年行われている研究会ですが、会を重ねるごとに、教員同士が顔の見える関係になり、児童生徒理解につながるとともに、教科指導における情報交換を行うことで、小学校から中学校への継続・発展した教科指導が進んでいます。

私が助言者として参加した音楽科部会では、今年度の西谷中の合唱祭に審査員として各小学校の音楽専科の先生に加わってもらえたら、より適正な審査ができ、生徒の意欲向上にもつながるのでないかとの話が出ました。小学校の専科としても、卒業生の頑張る姿を見ることは嬉しくもあり、小学校時代にどの部分を伸ばしておくことが中学につながるのか学ぶ場にもなります。早速、各校の校長先生に打診したところ、快く受けてくださり、実現しそうです。小学校時代に習った音楽の先生が審査員と聞いて、西谷中の皆さんはどんな反応をするのでしょうか。小中連携を進めるためには、教員が連携し、まずは行動を起こしてみることが大切なのだと実感しました。

また、今回来校された小中高の先生方が声を揃えて言ってくくださったのが、「市沢小の子どもたちは、どうしてこんなに挨拶をするのですか？」ということでした。約束事としての挨拶というより、ごく自然に自分から他校の先生方に声をかける子が多かったようです。私も本校に着任して早三か月、自分から挨拶してくれる子どもたちにすっかり慣れてしまっているので、改めて問われると「いつの間にか浸透してきたように思います。」としかお答えできませんでした。確かに入学式でも話しましたし、「オアシス運動」や6年のあいさつ運動もありました。おそらく担任の先生も様々な場面で声をかけているのでしょうか。小さな投げかけを地道に続けることで、できるようになり、広がっていったのだと思います。

私自身は、相手の顔を見て挨拶を交わそうとは心がけています。挨拶代わりにハイタッチの時でも、目を合わせ息が合うととても気持ちのよいものです。市沢の子どもたちも、挨拶の楽しさがわかって来ているならこんなに嬉しいことはありません。

これからも、市沢の子どもたちのよさを見つけ、伸ばし、発信していきたいと思っています。地域の皆様、保護者の皆様、子どもたちのよいところを見つけたらぜひ教えてください。いけないことをしたら叱ってください。どうぞよろしく願いいたします。